

JUNGIDO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人／浅田幸作
 発行所／滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所 2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日／平成19年4月20日
 編集人／広報部会・山田 勲
 印刷／有限会社服部印刷所

URL: <http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>
 E-mail: zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp

VOL. 24

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 = 桜 = 2007

CONTENTS

河原校長就任挨拶	1
素敵な仲間たち	1
平成19年度総会のお知らせ	1
周年記念同窓会報告	2・3・4
周年記念同窓会予告	4
吹奏楽団OB合同演奏会	4
野球部OB会对八商OB定期戦	5
同窓生投稿欄	5
会計報告・総会提出議案	6
会費納入のお願い	6
大崎校長退任挨拶	7
学外書展「萌芽」を終えて	7
スーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けて	7
新校舎が平成19年8月に完全整備	7
膳所高NEWS	8

新入会員



「素敵な仲間たち」
 平成19年3月卒業
植西亮太

三年前、遵義の桜に歓迎された私たちは、早くも卒業の日を迎えた。振り返れば、私たちの学年は波乱万丈の高校生活であったように思う。

場所のない状況にも関わらず、全校で知恵と力をあわせ実行したスポーツ大会。嵐の中強行した湖風祭。世間の渦の中、共に困難を乗り越えようと頑張った履修漏れ。
 お互い苦しい中、励ましあい、協力し、数々のピンチをチャンスに変え、私たちはこの三年間で本当に大きく成長できたと思う。
 特にこの学年で誇れると思うのは、一人が全員のことを考えられるということ、全員が一人のために動くということだ。

就任ご挨拶

校長 **河原 恵**



校訓である「遵義」「力行」を行動規範の源にして、この膳所高等学校のために全力を尽す。「義」とは正しき道。「遵義」とは正しき道に従うということ。「力行」とは苦しくとも地道に、

不断に努め行うということ。
 人が成長するということは簡単なことではない。また、自分の力だけで成長することもない。いろいろな出来事に会い、いろいろな人に助けてもらう。まず両親、兄弟そして友、さらには師と仰ぐ先生、先輩。自分自身との出会いもある。涙する自分、悔しさに歯ざりする自分、罪の意識に苛まれる自分。時には、優越感や劣等感に苦しめられることもある。しかし、それと同じ数だけ喜びや満足一杯の自分にも出会う。成就感や充実感を感じる自分。友とここに共にいること、この先生と出会えた喜び。この両親のもとに生まれてきてよかったという感謝の気持ち。そして、自分が自分でよかったという満足感。
 人生は複雑である。しかし、だからこそ面白い。人生は一度しかない。だからこそ掛け替えがない。自分一人ではない。みんなと共に生きている。

同じ学舎で同じ時を過ごす仲間たちと、そしてそれを支えてくれる先生、両親、家族。その中で自分を見つめる。自分の将来を見つめる。そして、自分を含めた社会の、日本の将来を見つめる。
 生徒たちは若い。いろいろな可能性を持つ。いろいろな能力を内在している。

その可能性を自分自身で鍛え、大きくしてほしい。そして、大きな力を得てその力を自分のためだけでなく社会のために尽してほしい。日本のリーダーとなりこの滋賀のリーダーとなって、それぞれが得意とする分野で中心的な役割を果たしてほしい。
 「ウサギとカメ」の話がある。人生は結局はカメである。カメに徹してコツコツと取り組む。日本を代表する細菌学者である野口英世の口癖は「努力だ 勉強だ それが天才だ」だったそうである。心の中には熱い大きな望みを抱き、日常生活では、カメの如く常に謙虚に、初心に戻って歩む。正しき道を歩む。大望を抱き人事を尽す。

このことは、この膳所に集まった人々に受け継がれてきた「遵義」や「力行」の精神と相通じるものであります。
 同窓生諸氏の母校に対する思いを真摯に受け止め、この学舎で今、大人としての人生を歩みはじめた在校生たちに、「膳所高魂」をしっかりと伝え継承できるように、校長として微力ながら全力を尽す覚悟です。
 何卒、母校に対するより一層のご支援とご指導をお願いいたします。

今年の湖風祭の準備期間には例年の暑さが更に増し、熱中症の生徒が続出した。熱中症で倒れる生徒が出るたび、ブロック長始め、ブロック内全員が次に倒れる生徒が出ないようにするにはどうすればよいかを、一人一人の意見を尊重し、真剣に考えた。ふと気付けば、「もうこんな時間か!」ということが幾度とあった。その熱のこもった会議の甲斐あって、湖風祭を総括すれば、熱中症で倒れる生徒も最小限にすることができたと思う。そして何よりも、誰にとっても一生の思い出となる最高の湖風祭にすることができたと思う。

私は、こんな素敵なメンバーに出会えて本当に感謝している。これから先、みんなバラバラになってもうけれど、この絆を大切にしたい。そして、またみんなと会える同窓会の日を楽しみにしている。

次の同窓会で出会うとき、みんなはどんなべっぴんさん、いけてるおじさんになっているのだろうか。または、どんなかわいの子供をつれてるのだろうか。みんなに胸をはって顔を合わせられるよう、膳所高の校訓である『遵義力行』を胸にこれからの日々を大切にしていきたい。

本年の総会は5月20日(日) 平成19年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成19年度定例総会を左記の要項により開催いたします。
 本年は校舎改築竣工、旧校舎解体、体育館改修に引き続き8月末にグラウンド整備、テニスコート(3面)整備で一連の工事が終了の予定です。本年度の総会に皆様方の多数のご出席をお願い申し上げます。

平成19年度 定例総会

- 日時 平成19年5月20日(日) 午前10時開会 (午前9時30分 受付開始)
- 場所 大津プリンスホテル 電話 077・522・1111
- 議事 一、平成18年度会務報告
 一、平成18年度会計報告並びに会計監査報告
 一、役員改選
 一、平成19年度事業計画並びに予算審議
 一、その他
- 講演 化学メーカーによる「地球環境保全への取り組み」
 講師 **高野直人氏**
 (昭和40年膳所高第13回卒)
 専務取締役CFO 兼
 帝人クリエティブスタッフ(株)社長
 (Chief Financial Officer)
- 懇親会 (懇親会にご出席の方は、当日受付にて) 会費6千円をいただきます。

● 講師プロフィール
 昭和40年膳所高等学校卒業/昭和44年一橋大学経済学部卒業/同年帝人株式会社入社(入社後、人事・経営企画・業務改革・財務等を経験)/平成14年同社取締役就任



講演の主旨
 今年アル・ゴアの『不都合な真実』が米アカデミー賞を受賞したこと代表されるように、今、地球環境保全が人類にとって大きな課題となっています。京都議定書に加入しなかった米国政府も環境問題への取り組みを加速しており、EUはポスト京都議定書を目指した長期目標を提示しています。
 こうした地球環境を巡る大きな変化の中で、一化学メーカーでの環境に対する取り組みをご紹介します。

出席のお返事は同封のハガキでお願いします。欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

周年記念同窓会

25周年記念同窓会

(膳所高31回・昭和58年卒業)

年の暮れも止しく押し迫った昨年12月30日、私たち膳所高校第31回卒業生はホテルグランヴィア京都において卒業25周年記念の集いを催す事ができました。出席者には恩師の先生方10名のご臨席を始め、男子55名、女子61名の計116名となりました。中には遠くニュージーランドから駆けつける者、関東から新幹線で日帰り、会を催した側の者は感激を深める事になりました。



さて、宴は前日の「美富士食堂」での悪夢の? (笑) 前夜祭に引き続いて催され、開場の約1時間前から旧友が続々と集まり、始まりの13時には宴会会場のロビーにて「宴猛なわ状態」になりました。そして3年当時、1組の名簿1番だった伊勢村浩司君の挨拶でいよいよ始まり、次いで当時の学年主任増井金典先生に乾杯の音頭を執って戴いて開宴、各クラス毎に写真撮影を進めながら各自の近況報告と続き、野球班三人組(山川、上田、中山各氏)のリードで校歌斉唱の後、代表幹事、私原田道生の終宴の挨拶、元ポット班の獅子堂秀雄君の三本締めにて無事終了、閉会となりました。会は同窓会代行業者「ピュア」木村氏に「名同窓会でした。」と評して貰えるものになり、その証拠には?河原町六角下ルの「ジンジャーマン」での二次会には半数の60名を超える旧友、朋友、悪友? (笑) が集い、更に楽しいひと時をともに過ごしました。

ここで会の報告を終えるに当たり僣越ながら一言、齢四十を越して懐かしき旧友との久々の再会は、ただ楽しいものであっただけでなく若き日より既に良友に恵まれた人生であるとの印象を持った者は、あの日以降私だけではないと思います。今後、その良友たちとの出会いを更に括かし、この「地球」という大地の隅を豊かな才能溢るる皆さまとともに照らして行ければ、更に幸多き後半生が待っていると確信して筆を置かせて戴きます。

30周年記念同窓会

(膳所高24回・昭和51年卒業)

去る2006年4月29日、昭和51年卒業生による卒業30周年記念同窓会を開催し、恩師の先生を含め、総勢178名が集いました。本当に楽しかったですね。代表幹事として、皆さんに感謝するとともに、満足感に今も浸っています。

いつまでも若々しく変わっていない友、それなりに年をとった友、思わず恩師の先生と間違え挨拶した友そして、懐かしい恩師の先生方。みなさん、30年の歳月の中、いろんな人生を経験されてきたことでしょうか。でも、いつまでも同じ校舎で学んだ友として、これからも頑張っていきたいと思います。私も2007年6月10日、いよいよ50歳の誕生日を迎えます。また、新たな人生を歩みだしていきたいと思います。

4月より、新校舎が完成し、旧校舎解体の前にと日を設定しました。校舎見学も80名を超える友が参加しました。心を込めて作成した「記念CDアルバム」には、思い出が一杯つまっています。悲しい時があったら、このアルバムを開いて下さい。みんなの笑顔が救ってくれることでしょう。



40周年記念同窓会

(膳所高14回・昭和41年卒業)

亥年の新春、正月気分も抜けない平成19年1月6日、卒業40周年の同窓会を大津プリンスホテルに恩師の先生方、同窓生、計170名余が集まり、昭和41年卒業の同窓会を盛大に開催しました。

私たちの年代は前回の記念すべき30周年も31周年目前で何とか開催した前科がある上に、予定した35周年も実施できずに過ぎ、10年振りの開催となりました。そんな反省を教訓に出来ず、今回もなかなか40周年の計画も具体化しませんが、60歳を前にした記念同窓会でもあり何とか年度内に実施しなければとの焦りもあり、ようやく実施出来た同窓会です。多くの方々にご参加いただけて大いに喜んでいきます。

今回は「団塊の新段階」のしく、粋にのテーマを設け、50歳代の人生を意義あるものにしよと同窓会を計画しましたが、50歳代は仕事や家庭など色々ながらみの中で過ぎさなければならぬ年代だけに、や、掛け声倒れになってしまいました。

しかし、今の私たちは40年前の高校卒業を前にして、どんな人生を進もうか?と考えていた頃と全く同じ状況にあり、50歳代のしがらみのある生き方と異なる自由な生き方を模索する選択肢は豊富です。

このため、07年問題の渦中、そのトップバッターとして過ごす私たちは、これからの人生をポジティブに生きて行こうとの思いを込めて、今回もテーマ「団塊の新段階」を

設け、大いに語り合う同窓会を計画したものです。また、今回はこれからの同窓会の新しい展開を目指し、県内と関東で集まって飲み会を中心に集まっている仲間の報告の時間を設けるとともに、「粋膳会」というHIPをアップし共通の語らいの場とすることの確認をしました。

いざ、懇親会が始まるとただただ懐かしさ一色の同窓会となり、テーマを設けた目標は果たせなかったものの、二次会にも多くの同窓生が出席し楽しい同窓会となりました。

「次回が最後かも…」との同窓生の心配も多く、次回からは確実に五年周期で実施することを確認し盛會裡のうちに閉会しました。

40周年記念同窓会

(膳所高15回・昭和42年卒業)

2007年1月7日、場所は大津プリンスホテルにて、昭和42年3月卒の同窓会が、同期生140名を超える参加を得て開催することが出来ました。

卒業して20年経って、第1回を開催してから、早いもので、今回で5回目となりました。



4回までは恩師の先生の皆様を囲んで歓談を実施したり、時には、膳所高校の先輩を講師にお願いしてお話を聞く場を設定したり、また前回は、琵琶湖から滋賀県をという事で、ミシガンを借りて、琵琶湖上で実施しました。

40周年としての今回は、過去の状況から見ても、2年です。60歳を迎え、多くの人達が、肩書きをなくすことから、じっくりと落ち着いて話をしようという事で、1次会・2次会をセットして、同期生だけで実施をしました。同窓会終了後も3次会、4次会と多くの仲間が時間が経つのを忘れて、歓談をしていました。

参加者からアンケートをとり、その結果、還暦記念の同窓会を実施することを決定し、次回の再会を約してお開きとなりました。

(沢井進一)

45周年記念同窓会

(膳所高9回・昭和36年卒業)

秋晴れの9月23日(祝)、第9回卒業45周年同窓会が大津プリンスホテルにおいて開催された。卒業25周年を皮切りに5年ごとに開催し5回目の同窓会である。正午から受付開始との打ち合わせを終え、すでにロビーで待ちかねていた出席者が殺到、あっという間にほぼ全員の出席を確認、いかに多くの同窓生が今日の日を楽しみにしていたか、始まる前からその様子をつかいがい知ることができた。恩師5名(小笠原保信、岡田節夫、北条 勇、山本利達、村田辰夫各先生)を迎え、同窓生137名相集い、二班に分かれての記念撮影を行い、13時会場のプリンスホールに勢ぞろいした。中江絹子(西堀)さんの司会よろしく校歌斉唱に続き、はや物故者となられた恩師をはじめ同窓生(42名)のご冥福を祈り黙祷を捧げ会は始まった。幹事代表の歓迎の挨拶のあと、同窓生と間違うほど若々しい村田辰夫先生よりご挨拶をいただき、山本利達先生の乾杯のご発声で開宴となつた。卒業45周年にして初めての参加者も数人おられ、あちこちでの談笑は絶えず、終始橋本昭夫君(岸本)の素晴らしいピアノ演奏が流れる中、会は進められた。公務多忙のため少し遅れも会を盛り上げた現、草津市長伊庭嘉兵衛君のスピーチも会を盛り上げた。また近くのホテルで5年先輩たちの50周年同窓会に出席されていた岡田、北條両先生も途中からの参加、大きな拍手で迎え、それぞれから近況などお聞かせいただいた。今回は旧交を温め、多くの友との語らいに十分時間をとってほしいとの要望により、これといった企画は特に用意せずだったが、やはり楽しい時間はあっという間に過ぎ、予定より30



分延長し、元応援団長田中長夫君の指揮の下母校にエールを贈り、一同大きな輪を作って恒例の「琵琶湖周航」の大合唱で一次会はお開きになった。

引き続き全員参加での二次会(プリンスサロン)へ席を移し、雰囲気もがらりと変わったところで、一次会では話せなかった友との語らいに時間の経つのも忘れ、気がつけば始めてからすでに5時間が過ぎていた。話は尽きず名残惜しいが5年後の50周年での再会を約し散会となった。

(松村 文夫)

50周年記念同窓会

(大津東高4回・昭和31年卒業)

〈母校を出でて半世紀：感慨も深く〉

5年ぶりに、私たち東四会は、平成18年9月23日(土)「秋分の日」午前11時30分より、琵琶湖ホテル「瑠璃の間」(イースト、セントラルの2室)にて、松山義夫先生、2組担任の北條勇先生、4組担任の岡田節夫先生の3名の恩師のご臨席を仰ぎ、134名の同期生の参加を得て、盛大に行われました。式典の部では、今回もまた辻滋世君の司会により、まず東四会会長椿鐵夫が、事業報告をかねて開会の挨拶を行い、恩師を代表して松山義夫先生よりお祝辞を賜った後、新たに不届の客となられた8名の同期生諸君のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げました。校歌「混濁の湖」の斉唱をもって式典の部を終了。引き続きホテル3階のスタジオにて二手に分かれての参加者全員の集合写真撮影、会場舞台前で高城宗求君にカメラマンをお願いしての各組ごとの記念写真撮影はさんで、予定より少し遅れて、いよいよ1時頃よりパーティーの部に移りました。冒頭恩師紹介、記念品の贈呈を経て、北條先生と岡田先生のご発声により乾杯、会食に入りました。と、あっという間に50年前にタイムスリップ、気心のあった者どうしの話の輪があちこちに出て来、談話は盛り上がり、今回は手品や演歌などの余興もあっ



て、会場は大いに沸きました。宴たけなわにして、「琵琶湖周航の歌」を大合唱。司会の辻君により今回ご出席いただけなかった恩師の「ひとこと」も披露されて、宴も終わりに近づき、全員で「追憶歌」を大合唱。皆様お元気で、との高橋好乃さんの閉会の辞にて、午後4時を過ぎてお開きとなりました。

別れ難き面々は連れ立って、ホテル隣のアーカス3階のカラオケB1 WAVEに移動、その数74名。大部屋3室に分かれて、熱唱また熱唱。予定の2時間を過ぎてても歌は尽きず、もう1時間延長。去り難き気持ちを抱きつつ、再会を誓い合って散会したときは、午後8時になろうとしていました。

(椿 鐵夫)

65周年記念同窓会

(膳所中39回・昭和16年卒業)

私達膳所中三九会は卒業65周年を迎え、平成18年11月16日、野洲市「橋梅楼」で総会を開催しました。当日は晴天に恵まれ、例年のごとく北九州市からも参加者があり、京料理に舌鼓を打ちながら、65周年を記念して作陶した校章入りの「ぐい呑」に注いだ美酒に酔い、歓談、放談、懐旧談に午後一刻を賑やかに過ごしました。



懐旧談では、秀才級長のK君が悪戯に某教諭の仇名を黒板の隅に書き、教員室に立たされたことや、集団駆足の練習で勢余ってワッショイ、ワッショイと大声の掛声をだし、それが逆鱗にふれた体操教諭から、目から火がでる程ぶん殴られたことなど、ヤンチャ坊主時代の秘話が飛び出しました。ただ残念なことは、80歳を超えた私達にとって当然のことですが、物故者が増え、今年も2名の会員を亡く、現在では生存会員52名となりました。書道展が、たまたま総会当日に大津市歴史博物館で開催されており、遺作の一つが総会会場でも展示され、彼の業績を偲んだことでした。

総会の最後は会員長谷川良治君が収録した膳所高ブラスバンド部の伴奏で「草生す城は墟古れど」の校歌を声高らかに合唱し、「5年後は米寿の総会だぞ」の声と共に、来年の再会を期し散会しました。

(片岡 重治郎)

還暦記念同窓会

(膳所高12回・昭和39年卒業)



前回40周年記念同窓会の席上「毎年でも同窓会を」との声を受け、卒業生全員が還暦を迎えた9月3日、旅亭紅葉比叡の間で還暦記念同窓会を開催。たまたま前月にあるクラスが同級会を開いたこともあり、出席者は80名弱にとどまったが、恩師5名、大崎校長をお迎えし、卒業以来初参加のメンバーも加え青春フィードバック。冒頭6組を担任いただいた井戸庄三先生の追悼報告とともに短かい人生を終えられた同窓生への黙祷を捧げることとなった。

また、当日午前中には大崎校長にご無理をお願いし、新校舎見学会を実施、参加者26名が真新しい校舎、行き届いた設備に羨望の感を少々抱きながらつぶさに見学。その後何名かは、今や全国にその名を轟かしている「美富士食堂」へ集合、40数年前の懐かしい味(?)を堪能した。

宴が進み、アルコールメータが上昇するにつれ、毎回お世話になっている橋本先輩のピアノ伴奏のもと、恒例となっている舟木一夫メドレーの大合唱、あっという間に時間が経ち、約半数のメンバーがラウンジ紫香楽へ移動、カラオケを混じえワイワイガヤガヤ、大いに余韻を楽しみ次回45周年での再会を誓い合った。「今度こそは出席をと思っていたのに病院での闘病生活、必ず復帰して次回は必ず参加したい」と返信をくれた谷口一彦君が11月18日ご逝去されたことが心残りである。また、写真右奥小さく横向きで映っている長谷川史郎君も本年3月20日にご逝去された。心からご冥福をお祈りしたい。

(服部 章)

喜寿記念同窓会

(膳中46回・昭和23年卒業)
(旧膳所高・昭和24年卒業)

平成18年11月12日(日)琵琶湖ホテルに、関東からの遠路組8名を含む51名の元氣な顔が揃いました。

記念撮影のあと、会場の琵琶湖の間へ、同期生の延暦寺長嶋大角光徹師による80名の物語者追悼回向が厳修され、先亡者一人ひとりのお名前がゆっくりと読み上げられ、それぞれ生前を偲びご冥福を祈りました。



目片章夫世話人代表の欠席者等の消息を含めた開会の挨拶、木下三郎会計の会計報告などのあと、最遠来の千葉市西藤公雄君の乾杯の発声で賑々しく懇親会に移りました。

久方振りの再会とあって、準備したカラオケも誰も歌わず、お互いの近況報告や膳所時代の回想に、旧交・絆を深めました。全員立ち上がったの「琵琶湖周航の歌」と「校歌」を声高らかに熱唱、元氣での再会を約しつつ散会しました。

次回は、草津地区の担当で平成20年秋、卒業60周年記念同窓会を開催の予定です。

(田中 健一)

膳中三七会

(膳所中37回・昭和14年卒業)

時正に風薫る5月25日我が三七会を例年の通りびわこホテル長等の間で行う。会合に先立ち、今年3月に竣工した母校の新校舎を見学、新装成った学び舎は四階建ての堂々とした建物で文化・体育活動の教室及び図書館・福祉厚生施設等至れり尽くせり、この恵まれた環境の中で日本の将来を見つめて勉学の出来る学生への期待も大きくふくらんでいくものと思われる。母校への思いを込めて「遵義の桜」に因み「染井吉野」を遊覧館南側の庭に植樹「思ひ出を桜樹に託す三七会」の句を添える。本日の出席者は18名遠く関東や三重・奈良から集いし友は一年振りの再会を喜ぶ。我々も85

歳と云う高齢に達し一つの区切りの時期に来ているので今後この会を継続するかどうかについて話し合ったが今後も続けて行こうと云う意見が強く、目標を「米寿」に於て続けることに決す。宴酣になり、恩師高山幸生先生作詞の「再会」を熱唱「乾杯」謡曲「千秋楽」「琵琶湖周航歌」等放歌高唱の時を過ぎ、最後は我々の胸に刻まれた校歌「春駘蕩の琵琶の湖」を声高らかに唱い三七会の弥栄を祈念し萬才三唱来るべき年の再会を約して会を閉じる

八十路越え集ふ湖畔や五月晴れ

(清水 仙太郎)



周年記念同窓会 予告

20周年記念同窓会

(膳所高35回・昭和62年卒業)

日時 平成20年1月2日(水) 11時より

会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

(詳細は別途ながきで案内)

連絡先 世古 誠・中嶋 忠司

TEL090・8655・0925

E-mail:seko@ni-consul.co.jp

25周年記念同窓会

(膳所高30回・昭和57年卒業)

日時 平成19年8月12日(日) 13時より

会場 琵琶湖ホテル

幹事 宇田 賢一

TEL077・581・8450

45周年記念同窓会

(膳所高10回・昭和37年卒業)

日時 平成19年11月18日(日) 13時より

会場 ロイヤルオークホテル

会費 一〇,〇〇〇円

連絡先 小林 辰也

甲賀市水口町松栄4-12

TEL0748・62・1112

50周年記念同窓会

(膳所高5回・昭和32年卒業)

日時 平成19年6月17日(日)

午前11時30分 受付

会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

会費 一二,〇〇〇円(記念品代含む)

(詳細は5月中旬にご案内します)

連絡先 小西 英太郎

TEL077・522・5988

携帯090・7886・9283

55周年記念同窓会

(大津高3回・昭和27年卒業)

日時 平成19年11月15日(木)

午前11時 受付

会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

代表幹事 ふなの会会長 中村 敬司

※詳細については10月中旬にご案内いたします

吹奏楽団

OB合同演奏会 開催

膳所高校吹奏楽班OB会は、第2回OB合同演奏会を2007年1月21日(日)、栗東芸術文化会館「さくら」大ホールにて開催しました。

昨年9月2日より年末年始も返上の毎月1〜2回の練習に遠方よりの参加もあり、昭和39年卒のベテランOBから、OB1年生の平成18年卒まで総勢57名が演奏しました。演奏会を支えるスタッフも10名以上のOBにより、自前で演奏会を盛り上げました。懐かしい曲を中心に、現役員からのリクエストも加えて組ん

だプログラムの数々に参加者それぞれの思いも加わって、本番独特の盛り上がりにより、感動的な演奏となりました。また、演奏会後の打ち上げとして懇親会を開催し、聴衆参加のOBも加わり親睦を深めました。

同OB会は、「OB相互の親睦と現役への援助」の目的で昭和49年に産声を上げ、約20年近い空白期間を経て、5年前に再生活活を遂げました。以来、活動を司る事務局を高校卒業間も無い若手に引き継ぐことで、新卒の入会者もどんどん増え順調に動いています。

さて、第2回目の今回は、前回の熱演と盛況に励まされた若手メンバーが中心となった開催でしたが、意外に難題が山積しました。何とか成功に漕ぎ着けたが、練習場所の確保や選曲、楽譜の手配、バランスの取れたメンバーの確保など、今後の課題は多いです。しかし、さらに素敵な演奏会をと全員が願っています。

高校卒業直後の若手から、還暦を越える熟年まで広い年代層で多彩な顔ぶれ、職種も立場もさまざまですが、ステージ上では一演奏者としての平等な人間の集まり。演奏を楽しむ、素敵な音楽を追求する姿勢の違いはありません。青春の一時期を同じ班活動で過ごしたという繋がり、親子を超える年代の開きがあっても、ステージの上では全く対等。この社会的に特殊で稀有な出会いを存分に楽しんでいます。

他にも当会では年一度の総会、不定期の懇親会などOB相互の親睦のほか、現役員への援助活動としては、新入班員が多く不足する楽器にOB所有のものの手配と貸与、現役演奏会の資金援助と裏方スタッフとしての協力、練習の技術指導など積極的なサポートを行っています。

次回OB演奏会は計画が始まるころです。皆様もぜひ次回演奏会にお越しください。

http://www.scn.tv/user/yokota-m/zbob/
お問い合わせは zbob_office@yahoo.co.jp

膳所高校吹奏楽班OB会
会長 伏木 雅人(S49膳所高卒)



野球部OB会 第16回対八商OB定期戦に60名

平成18年8月27日(日)、第16回膳所高校対八幡商業高校のOB定期戦が八幡商業高校グラウンドに於て開催された。

この大会は、明治31年本校の創立と同時に創部された我が校野球部、奇しくも同年4月には八幡商業高校にも野球部が誕生し、ともに100年を越す歴史を持ち、湖国の高校野球界をリードしてきた両校が、平成3年、50年振りにOB戦を復活し、以来毎年交互に両校のグラウンドに於て開催されている。



現役時代は、互いにライバル校として、幾多の名勝負をしてきたOB諸氏達、毎年開かれるこの対抗戦を楽しみに、各自がトレーニングをしたり、母校での全体練習に参加して大会に備えた。

試合は、新卒OBから傘寿を迎えられた大先輩迄、両チーム合わせて約130名の選手が年代別に3チーム(青年の部平成2年卒以下、成年の部昭和45年3月卒、平成1年3月卒、壮年の部昭和46年3月卒以上)に別れて和気藹々、時には勝負にこだわり、胸のZのマークにこだわり、現役時代のプレーを彷彿させる熱戦を繰り広げた。

試合結果

第1試合(壮年の部 軟式) 膳所高校9対3八幡商業

第2試合(成年の部 硬式) 膳所高校12対11八幡商業

第3試合(青年の部 硬式) 膳所高校3対19八幡商業

ゲームの後は場所を移しての懇親会、その日の互いの健闘を讃え、校歌を斉唱したり、エールを交換したりと賑やかな会となった。

平成17年からは対抗戦前日に現役の試合も組まれている。

現在、野球部OB会は500余名のOB会員で構成され、一年を通じて現役への支援と応援、OB相互の親睦を目的に運営されている。

毎年の総会、会報の発行、4年に一度の会員名簿の発行、新年会、前述の対八幡商業高校との対抗戦、県下高校野球OBシニア野球大会への参加、ゴルフ大会、有志による施設の子供達と野球を通じての交流など多くの事業を行っています。

(山田 勲)

同窓生投稿欄

魂のタックラー

2002年度ラグビー班主将

木下 裕介

今年の国立競技場からは目が離せなかった。全国から優秀な選手が集結する早稲田大学ラグビー部。ラグーマンあこがれの伝統のアカクロジャージ8番を着て一人のZ戦士が走りまわっていたからだ。

早稲田ラグビー8番「林 徹」を紹介しよう。

まさに魂のタックラー。高校時代から一番前体を張るプレーは本当に頼りがいのあるものだった。ともに苦しい練習を乗り越え、汗を流しひたすら花園出場だけを目標とした3年間。高校3年の時にその夢は叶い、高校ラグビーの聖地「花園」でプレーすることができた。



その時のうれし涙は一生忘れない宝物だ。林は大事な試合前は常に緊張していたが、試合中は誰よりも熱い男だった。自分より大きい相手をバタバタなぎたおしていた。

そんな彼だが普段の練習前はロッカールームに釈由美子のポスターを張り毎日「由美子、今日もがんばってやるぞい」と意気込みグラウンドに向かうというお茶目な部分もあった。

大学に入りそのタックルとひたむきさを武器に最終学年でジャージをつかみ取った。林のタックルがテレビで見られて本当にうれしかった。国立競技場で超満員の中、膳所高校のタックルを証明してくれたかのような気持ちだった。

自分たちのチームメイトが大学に入って全国レベルで活躍してくれたことは私たちにとっても大きな誇りだ。

春からは社会人チーム「ホンダヒート」でプレイすることが決まっている。来年からも魂のタックルを見せられることを期待しよう。

膳所高校で得た宝物

昭和30年卒業 安井 美智子

還暦も過ぎると昔がなつかしくなるものですね。昨年久し振りに出席した同窓会。場所を間違えたのかと困惑する程の紳士、淑女の集まりでしたが、すぐ高校時代の顔に戻り、あの頃は、ゆっくりした時間の中で実力ある先生方に教えていただいた我々は恵まれていたなあと盛り上がりました。漢文の阿頼耶先生、国文の山本利達先生、越冬ツバメ研究の谷元先生、中でも私を音楽に開眼させて下さった青先生。タイトなスタイルで背筋をピンと伸ばして気品を漂わせていらしたあこがれの女性。授業といえはコールユーブンゲン・コンコーネ・ドイツリートにイタリア歌曲、原語で習いました。今思えばかなり程度が高かったです。楽しくてテキストがボロボロになるほど使いました。印象的なことは青先生の声量豊かな美しい声に感動したこと。一度ピアノを弾きながら歌われたことがあり音楽室のガラスが共鳴してビリビリと響いたかのようでした。一生徒に感動を与えられる先生との出会い、膳所高校で得た宝物として大切にしています。

「人生一回性」

この言葉が私を支えてくれた

昭和43年卒業 石川 正明

大学出たところホヤホヤって感じの、若い、国語の先生が、教室に入ってくるなり、いきなり、黒板に「人生一回性」と書かれた。その後の私を支える言葉との出会いは、この時だった。

物はいくらでもある、しかし時は一度使ったら二度とは使えない、結果を恐れず、一時一時を自分の意志で、ひたむきに生きることこそ、一回きりの人生を生きたということではないのか。

生徒会長立候補の決意、大学紛争との関わり、教授との対立、そして予備校の講師としての仕事、子育て：すべてのことで、私の心の支えになってきたのは、この、「人生一回性」でした。

駿台予備校で化学を教え出してから、はや三十年近くになります。毎年、大学受験に失敗し、挫折を味わい、再生を期して頑張ってきた若者たちが巣立っていきます。その彼らに贈る言葉はいつも、「君も僕も、一回性の人生を歩んでいきます、一時一時に心を込めて、共に豊かに生きていきましょう」です。

すてきな言葉を紹介して下さいました。大野先生、有難うございました。

膳所高校卒業生寄贈図書

「石鹿文庫」

書名・巻次(版次)

著者名	村山 正著 Thorild Hylved-Jacobsen 三品 文雄著 三品 文雄 編著 辻久也 共訳 有泉 学宙 小島 次雄 丸山 茂徳著 磯崎 行雄著 木村 光子著 八木 幸子著 坂 志朗著 玉置 桃子著 高橋 春成著 草野 善明著 草野 善明著 草野 善明著 草野 善明著 藤澤 武史 編著 Ernesto Mognischo 草野 善明著 米津 彬介著 水谷 曉著	書名・巻次(版次)	美しい地球を子孫に 下水道管渠内反応 生物 化学的処理施設として 下水道施設における硫化水素の生成と制御に関する研究 さらに詳しい下水道腐食対策講座 アーサー・ミラー小説集・ママなんか死んじゃえ これからの環境科学…自然環境と人間社会を総合的に考える 生命と地球の歴史 乳海にうかい 比叡ゆばから始まるおいしい話 バイオディーゼルのすべて 童話から入るイタリア語 最初級編 人と生き物の地理 先輩女性に学ぶ 続 先輩女性に学ぶ 経営の心はアナログ 管理はデジタル レッスンユマンの不安解消 実力アップへの98のヒント アメリカ力新発見 SWIMMING FATEST 新 先輩女性に学ぶ 触れない世帯 ジプシー
-----	---	-----------	---

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。

同窓生の著書を集めた「石鹿文庫」も皆様のご寄贈で充実してまいりましたが、更なる充実をめざしてご協力をお願いします。なお、ご寄贈いただく際には同窓会事務局までお知らせください。

お詫びと訂正

前号JUNGI DO Vol.23に以下の誤りがありました。ここに謹んでお詫び申しあげ、訂正させていただきます。

- ・7頁「一井戸庄三先生安らかに」の文中(誤) 昭和37年、徳島国体(正) 昭和37年全国高校総体ヨット競技大会(高松市)
- ・8頁 班活動報告 弁論班の班員名紹介で 高田啓佑君(2年)の氏名が脱落していました

平成18年度同窓会会計報告・平成19年度同窓会総会提出議案

◆平成18年度 同窓会会計報告 (H18.4.1~H19.3.31)

一般会計 《収入の部》

項目	金額	H18年度予算	備考
前年度繰越金	2,693,925	2,693,925	
平成18年度会費	3,381,000	3,000,000	会費会計より振替
前受会費	4,961,200	4,955,200	会費会計より振替
同窓会入会金	1,305,000	1,320,000	
雑収入	564,008	130,000	寄付、受取利息、 タックシール代等
合計	12,905,133	12,099,125	

《支出の部》

項目	金額	H18年度予算	備考
總會費	558,512	700,000	
会議費	145,201	150,000	理事会、役員会等
交際費	27,100	50,000	
通信費	626,769	700,000	賛会出欠用紙等、 会費振込用紙等
旅費交通費	16,540	200,000	
支払手数料	177,482	200,000	
雑給与	1,170,000	1,400,000	
コンピューター関係費	40,950	100,000	システム年会費他 コピー用紙他
事務用品費	56,036	100,000	
備品・消耗品費	148,739	100,000	
広報発行費	1,206,400	1,160,000	23号発行
広報発送費	2,205,903	2,230,000	広報封入封緘、郵送料他
ホームページ運用費	150,000	180,000	ホームページ作成費
周年同窓会お祝い金	270,000	500,000	7学年、お祝い
学校助成金	1,000,000	1,100,000	京大特別講座助成他
慶弔費	40,460	100,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,000,000	全国大会参加助成他
各部会費		700,000	
広報部会費	0		
組織部会費	9,262		
事業部会費	332,950		ゴルフ大会案内、 賞品代他
財務部会費	129,865		会費納入依頼再発送代
総務部会費	4,508		
予備費		1,429,125	
予備費	136,800		歴代校長写真代 (額録付き)
合計	9,453,477	12,099,125	

差引現在残高 3,451,656 (=12,905,133-9,453,477)
(次年度へ繰り越し)

特別会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	6,256,674	
利息	2,762	
合計	6,259,436	

《支出の部》 なし

差引現在残高 6,259,436 (次年度へ繰り越し)

◆同窓会財産目録

I 一般会計及び会費会計 合計

◇郵便局 定額貯金	1口	6,000,000円
郵便振替	1口	3,547,130円
郵便貯金	1口	720,010円

◇滋賀銀行 本店 普通預金	604,855円
膳所支店 普通預金	2,109,924円

◇びわこ銀行 本店 普通預金	940,417円
◇事務室現金	0円
計	13,922,336円

II 特別会計

◇滋賀銀行 膳所支店 普通預金	6,259,436円
-----------------	------------

計 6,259,436円

III 名簿会計

◇滋賀銀行 膳所支店 定期預金	2,500,000円
膳所支店 定期預金	3,500,000円
膳所支店 普通預金	18,057円
計	6,018,057円

◆平成19年度 予算(案)

一般会計 《収入の部》

項目	H19年度予算案	H18年度予算	備考
前年度繰越金	3,451,656	2,693,925	
当年度会費	3,200,000	3,000,000	会費会計より振替 1600円
前受会費	4,173,000	4,955,200	会費会計より振替
同窓会入会金	1,305,000	1,320,000	435口
雑収入	100,000	130,000	受取利息、タック シール代、寄付
合計	12,229,656	12,099,125	

《支出の部》

項目	H19年度予算案	H18年度予算	備考
總會費	700,000	700,000	
会議費	150,000	150,000	理事会、役員会
交際費	50,000	50,000	
通信費	700,000	700,000	賛会出欠はがき、 会費振込用紙他 会費納入 関東同窓 会
旅費交通費	200,000	200,000	役員会、関東同窓 会
支払手数料	200,000	200,000	会費納入 会費手数料
雑給与	1,400,000	1,400,000	
コンピューター関係費	100,000	100,000	メンテナンス他
事務用品費	100,000	100,000	
備品・消耗品費	100,000	100,000	収納棚 他
広報発行費	1,160,000	1,160,000	1回分 28,000部 印刷
広報発送費	2,300,000	2,230,000	1回分・会費振込 用紙同時 他
ホームページ運用費	180,000	180,000	更新 他
周年同窓会お祝い金	500,000	500,000	
学校助成金	1,000,000	1,000,000	京大特別講座助成 他
慶弔費	100,000	100,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,100,000	全国大会参加費補助 他
各部会費	700,000	700,000	広報取材活動費、 会費納入依頼書他
予備費	1,589,656	1,429,125	
合計	12,229,656	12,099,125	

会費会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前受会費繰越金	12,535,540	
平成18年度会費	3,348,000	
平成18年度端数会費	33,000	
平成18年度前受会費	2,896,340	
合計	18,812,880	

《支出の部》

項目	金額	備考
平成18年度会費	3,348,000	一般会計へ振替
平成18年度端数会費	33,000	一般会計へ振替
前受会費平成18年度分	4,961,200	一般会計へ振替
合計	8,342,200	

差引現在残高 10,470,680 (=18,812,880-8,342,200)
(次年度へ繰り越し)

一般会計現在残高 会費会計現在残高
3,451,656 + 10,470,680 = 13,922,336

名簿会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	6,000,000	
名簿売上金	16,600	
利息	1,457	
合計	6,018,057	

《支出の部》 なし

差引現在残高 6,018,057 (次年度へ繰り越し)

平成19年度 事業計画案(概要)

会員相互の親睦と教養の向上を図るとともに、母校に対する支援・協力の諸事業を行う。

本年度は、新校舎竣工及びびわこグラウンド整備、体育館改修に伴い、母校の要請により特別事業に協力する。

- 総務部会 年次総会・理事会の開催、役員会等は必要に応じて開催する。母校との連絡協議を積極的に推進するとともに、各部会への協力、支援を行う。
- 財務部会 年会費の徴収に努めるとともに、特別事業に必要な資金の収納に協力する。
- 事業部会 総会時の講演会や懇親会の開催、各学年同窓会への協力、ゴルフ大会等交流

会の開催を通じて同窓会活動の活性化に努める。

また、学校後援会活動、文化班、体育班への奨励に努める。

- 広報部会 母校の情報発信、同窓生の交流を図るため、年1回ではあるが、同窓会報「JUNGIDO」を発行する。充実した紙面作りに努める。
- 組織部会 地域、職域の組織づくり、各クラブOB会の充実に努める。

ホームページアドレス
<http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>
メールアドレス
zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp

滋賀県立膳所高等学校同窓会

年会費納入のお願い

平成19年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。

ご理解とご協力を
よろしく願います。



会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)、まとめてご納入いただければ幸いです。

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378
(振替用紙は共通です。) 銀行 滋賀銀行 本店 普 913381
びわこ銀行 本店 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会 会長 浅田 幸作 です。

※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いしています。
※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入ください。

(財務部会)

会費納入ありがとうございました

同窓会会費納入状況

会員の皆様から納入していただきました

平成18年度同窓会会費は、

平成19年3月31日現在、

総額 **8,342,200円**
となっております。

前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきます。

会員の皆様のご理解に感謝しますと共にますますのご協力をお願いいたします。

今回平成19年度会費納入の振替用紙を同封いたしておりますのでご入金のご希望、よろしくお願い申し上げます。

(財務部会)

退任ご挨拶

校長 大崎 悦男

平成16年4月、伝統ある膳所高校校長を拝命し、創立以来の長い歴史や伝統に培われた校風に思いをいとし、この「JUNGRIDO」の就任挨拶に、校訓の「遵義・力行」と私の座右の銘「恕」と「克己心」が共通していると記したことを思い出します。

この3年間、校舎の半世紀ぶりの改築、普通科通学区の全廃といった大きな課題に直面し、また、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けるなど、本校にとって新たな飛躍を期する大変重要な時期であるとの認識を強く持つてきました。

生徒達にはいつも「ピンチをチャンスに」と激励し続けました。素直な本校の生徒達は本当によく頑張ってくれました。感謝しています。生徒達は新しい校舎で伝統を引き継ぎ発展させなければならぬという使命を果たしてくれることと信じています。

一方、世の中全体を見渡してみますと、かつて日本の教育は世界に冠たるものだとよく言われていたように思います。日本人は、決して「我」(われ)を主張せず、他人への思いやりにあふれ、礼儀正しい、等とやられていました。しかし最近では、残念なことですが、教育現場ははじめ社会全体に、その逆の状況が多く見られるようになったということです。一日も早くこうした荒廃に終止符を打ち、次代を担う青少年の健全育成を図るべく、教育改革という諸施策が次々と出される時代となりました。現在、あまりにも改革の内容が多岐にわたる速度が急激なのに、学校現場の対応は遅々として未解決の問題が積み残されているのが現状です。こうした中、いじめ問題や必修科目の未履修問題等、学校バッシングというべき状況が続いており、そんな中、私自身、日頃「急がば回れ」で対応することを心がけてきました。この語源は、近江八景「矢橋の帰帆」を歌った「もののふの矢橋の舟は早けれど急がば回れ瀬田の長橋」の歌にあるといわれています。この3年間、この考え方で、瀬田の唐橋を渡っていきたく心がけてきました。本校の歴史・地域性を大事にしなが、不易の部分をしっかり見据え、改革していきたく考えてきました。

「恕・克己心」から始まって「ピンチをチャンスに」「急がば回れ」で終わった3年間でした。同窓会会員の皆様や地域の皆様本当にありがとうございました。同窓会のますますの発展と会員の皆様のご健勝を祈念してご挨拶いたします。

学外書展「萌芽」を終えて

書道班参与

神田 浩

去る3月23日より3日間、大津市歴史博物館で「第4回膳所高校書道部書展『萌芽』」を開催させていただきました。

毎年春に開催させて頂くこの展覧会も、今回で4回目となります。大津市歴史博物館のような県内で最も恵まれた展示スペースをお借りして、一高校の書道部が単独で書展を開催するというのは、全国的に見ても珍しいようです。ただ、4回目といっても部員にとってもは、1年生はもちろん上級生にとっても初めてのことが多く、いつも手探りの状態で開催までの日々を過ごすこととなります。とりわけ今年は1、2年生部員がわずか5名という厳しい状況で、一時は開催さえ危ぶまれる状況だったのですが、例年賛助出品して頂いている本校書道部OBで現在指導者として活躍の先生方、他、本校開放講座を受講された方々や近年卒業

したOGも多く出品していただき、充実した展示とすることができました。その他、会場の大津市歴史博物館をはじめお世話になりました関係各位にこの場をお借りして改めて厚くお礼申し上げます。わずか3日間の会期にもかかわらず、約650人の方にご来場頂き、貴重なご意見や励ましをいただくことができました。また、会場で販売させていただきました恒例のオリジナル年度カレンダーも好評でした。部員達にとりましては、こうした励ましや好評を頂いたことが自信となり、頂戴したご意見が、自身のまだまだ至らぬ点を自覚し今後更に成長する糧となったことと思います。お忙しい中お運びいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。報告とさせていただきます。



スーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けて

平成18年度より、理数教育を重点的に支援する「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」の指定を受けました。

膳所高校では「知的発見の喜びと感動 (Sense of wonder) を体験させる理数系教育の創造」をキーワードに、従来の理数科課題研究や理科実習旅行等の教育活動に加え、京都大学との連携を核にした「科学への興味・関心・意欲」をはぐむ取り組みや、米国ミシガン州での科学研修等を通して、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かで国際的にも通用する人間の育成をめざしています。

特に京都大学での特別授業には同窓会からの助成もいただき、前後期あわせてのべ150名の生徒が金曜日の放課後に京都大学に直接出向いて、エネルギー科学・生命科学・環境科学・人文社会科学等のコースに分かれ、大学の高度な教育・研究に触れ、高校教育の枠を越えた発展的な学習をしています。これを通して生徒は、学究的な意欲・関心を深め、学びの楽しさを実感するとともに、主体的な進路選択への意識も高めています。

同窓会よりのご支援に対し厚く感謝申し上げますとともに、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



会員名簿発刊のお知らせ

前回は平成15年5月に発刊しました。5年毎に増補改訂して発行します。

同窓会員は36,500名を越え、約1,050頁の予定です。

全会員の氏名・住所など正確な情報を把握するため、本年8月に調査カードを各人にお送りしますので必ず返信願います。

平成20年2月には調査を終了し、4月に印刷製本、平成20年5月に発刊します。

今回の頒価は前回同様4,000円(送料税込み)です。この名簿は会員のための完全予約販売ですので、ぜひご予約くださるようお願いいたします。

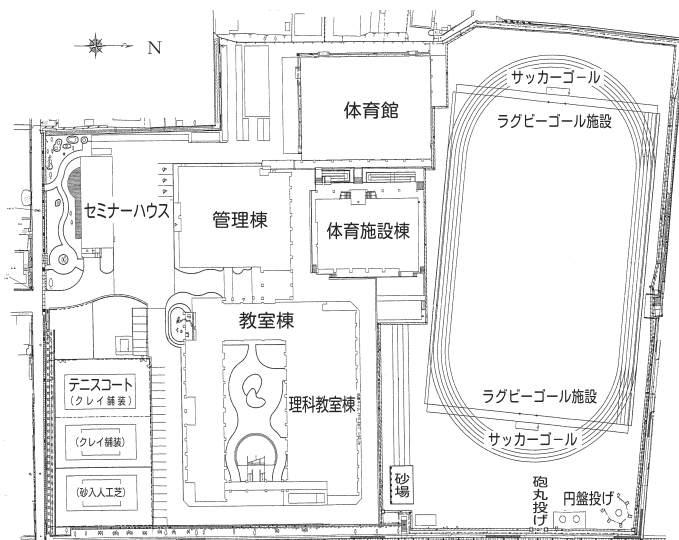
名簿広告を受け付けています。

- ・カラー 1頁 20万円・モノクロ1頁 8万円
- ・モノクロ 1/2頁 5万円・モノクロ1/4頁 3万円
- ・名刺広告 1/10頁 1万8千円

名簿作製は(株)サラト(姫路市)に委託して行ないますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

(組織部会)

新校舎が平成19年8月に完全整備



膳所高校校舎改築に関連する工事は、平成18年3月に教室棟・管理棟・体育施設棟・セミナーハウスが完成。平成19年3月に旧校舎の解体工事、体育館改修工事が終了しました。

平成19年度は解体された校舎跡のグラウンド整備およびテニスコートが設置されます。

全ての工事が完了するのは平成19年8月末の予定です。

主な施設概要

- ・グラウンド 300mトラック 100m直線コース
- ・砂場・鉄棒・投てき用サークル・サッカー・ラグビー
- ・ソフトボール・ゴルフ等の体育実技に使用します
- ・テニスコート3面

(クレイコート2面、オムニコート1面)

膳所高 NEWS

第55回卒業式

「苦難を乗り越えて」

平成19年3月16日、本校体育館に於いて、第55回膳所高等学校卒業証書授与式が行われ、普通科395名、理数科40名、計435名が自信と誇りを持って新たな旅立ちをした。

本年度は、昨年末に起きた未履修問題の影響で、卒業式が延期されたという経緯がある中で、式であり、生徒達だけでなく、保護者の方も特別な思いでこの式に臨まれたようであった。また、改築された真新しい体育館で行われたこともあり、皆感慨深い面持ちであったようである。

宇野同窓会名誉会長、浅田同会長、今市同常任理事長、小西同総務部会長、元校長松山、武原両先生方、父母教師の会会長、同副会長、旧職員武田、望月、猶館先生を来賓に迎え、在校生(2年生全員、1年生各クラス代表2名)、教職員出席のもと盛大に開催された。

3年生は各クラス担任から呼名され、卒業証書が各クラス代表に授与された。大崎悦男校長は、式辞の中で「受験を前に補習というハンデを背負ったが、しっかりとやり遂げることができた。今までの研鑽と努力を称え、「遵義の心」で思いやりと感謝の気持ちを忘れず、「力行」にある、真に自立した心で知性と感性を磨き、グローバルな視点を持ち続けることを願う旨を是なむけの言葉とされた。



卒業生代表として植西亮太君と水谷友紀さんが「卒業生の言葉」の中で、「いろいろなことがあったが、この3年間学んだことを忘れず、これからも努力をしていきたい。後輩達、先生方、保護者の皆様のおかげで、この日を迎えられたことが何よりの喜びです。」と述べた。その後、卒業生全員が、「巣立ちの歌」を合唱し、吹奏楽班による「風」の演奏の中、出席者の拍手を浴びながら会場を後にした。

また、これに先立って、前日の3月15日に、同窓会入会式と卒業記念品目録贈呈式が行われた。同窓会入会式では、同窓会から浅田、小西両氏からお祝いの言葉を頂き、代表の3年1組奥村将太君が入会の御礼を述べた。また、卒業記念品目録贈呈式では代表の3年1組山崎美佳さんが、綱引きロープ、テント二張り、書架、体育館ステージつり下げ幕の一部補助の目録を贈呈した。

写真に映っている舞台幕は、体育館改修記念として平成18年度卒業生一同と同窓会が共同で寄贈したものです。

班活動報告

平成18年度班活動結果

報道部

○放送班
第53回NHK杯全国高校放送コンテスト
滋賀県大会
アナウンス部門 優勝 羽瀨みずほ(3年)
創作テレビドラマ部門 優勝
創作ラジオドラマ部門 2位
全国大会
アナウンス部門 出場
創作テレビドラマ部門 出場
創作ラジオドラマ部門 出場
全国高等学校総合文化祭
朗読部門 出場 奥山 折緒
滋賀県高等学校総合文化祭
朗読部門 2位 越後絵里加
インターハイポルト競技 放送・司会担当

体育部

○空手道班
全国高校総体 男子個人形 出場 宮原 拓真
男子個人組手 出場 宮原 拓真
○体操班
全国高校総体 女子新体操 団体 出場
○卓球班
全国高校総体 男子学校対抗出場
山本 修平(男子シングルス)
○ポルト班
全国高校総体
男子 舵手付きクォドルプル 準決勝出場
ダブルスカル 準々決勝出場
女子 シングルスカル 準決勝出場
国民体育大会
男子 ダブルスカル 7位高柳(滋賀選抜)
女子 舵手付きクォドルプル 7位上田
シングルスカル 6位野崎(滋賀選抜)

文化部

○音楽班(合唱部)
全国高等学校総合文化祭 出場
○かるた班
第28回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
団体戦の部 予選リーグ2位
個人戦の部 B級 4位 西澤 寛貴
D級 4位 藤井 素宇

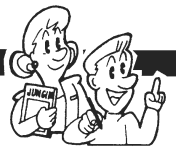
サクラサク!

主要大学合格者

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
(国立大学)		福井大	1名	関西学院大	27名
京都大	46名	岐阜大	1名	関西大	27名
大阪大	28名	三重大	1名	同志社女子大	22名
神戸大	23名	奈良教育大	1名	近畿大	18名
京都工芸繊維大	15名	徳島大	1名	京都薬科大	14名
滋賀大	14名	香川大	1名	佛光大	13名
滋賀医科大	7名	九州大	1名	早稲田大	11名
大阪外大	7名	熊本大	1名	慶應大	8名
京都教育大	5名	琉球大	1名	中央大	8名
北海道大	5名	(公立大学)		京都産業大	7名
岡山大	4名	大阪市立大	13名	東京理科大	5名
金沢大	3名	京都府立大	6名	京都橋大	5名
静岡大	3名	京都府立医科大	5名	大阪薬科大	5名
信州大	3名	滋賀県立大	4名	酪農学園大	4名
横浜国立大	2名	大阪府立大	4名	大谷大	4名
名古屋工大	2名	首都大東京	2名	摂南大	4名
名古屋女子大	2名	富山県立大	1名	東海大	3名
鳥取大	2名	福井県立大	1名	神戸薬科大	3名
島根大	2名	神戸市外大	1名	東京農業大	2名
東北大	1名	奈良県立医科大	1名	長浜バイオ大	2名
筑波大	1名	(私立大学)		京都嵯峨芸術大	2名
お茶の水女子大	1名	立命館大	317名	関西工業大	2名
東京医科歯科大	1名	同志社大	80名	関西医科大	2名
東京学芸大	1名	龍谷大	40名	武庫川女子大	2名
東京芸大	1名	京都女子大	31名	自治医大	1名
一橋大	1名			青山学院大	1名
				法政大	1名

(平成19年3月23日現在)

編集後記



●花の便りとともに、開花も間近かになった3月27日、JUNGO DO 24号の編集を終えることができました。周年同窓会の報告は、学年により個性はあるもの、それぞれの楽しい様子が目に浮かんできます。

●JUNGO DOの発行を「年2回」という声もありますが、嬉しい反面一番の悩みは、広報部員が少ないこと。併せて高齢化も進んでいます。若い世代の方々に参加いただき、新しい感覚の紙面作りを進めていきたいと思っています。是非の参加をお願いします。

●新校舎も完全整備され嬉しい年になります。時には思い出してほしいこと、近くの和田神社には、かつての藩校だった時代の遊藝堂の表門が移築されているそうです。

●「国宝・彦根城築城四〇〇年祭」が開幕。彦根城は昭和27年に国宝に指定され、国宝四城の一つです。

●国宝の天守閣は京極高次が築いた大津城からの移築とされています。期間中一度は訪ねて見たいものです。(Y.S)

上野滋子(東2)・佐田葉子(旧大)・山田 勲(膳11)
服部 章(膳12)・東郷重明(膳15)・藤原陽子(膳16)
岡澤則子(膳26)・井上正雄(膳16)